

『ねこはねこのゆめをみる』 原画展

2024.5/9 [木]-12 [日]

Open: 10:00-18:00 (金曜のみ 17:00 まで)

場所: 京町家えほん館むむむ

アクセス: JR 山陰本線「二条駅」徒歩 9 分
阪急京都線「大宮駅」徒歩 14 分



<https://ehonkan-kyoto.com>

『ねこはねこのゆめをみる』 出版記念トークイベント

2024.7/13 [土]

開催時間: 18:30-19:30

場所: 長谷川書店 水無瀬駅前店

アクセス: 阪急京都線「水無瀬駅」改札出てすぐ
JR 京都線「島本駅」徒歩 10 分



<http://walkingreader.blog60.fc2.com>

料金: ¥1,000

登壇者: 鋤柄真希子、松村康平、花田睦子 (えほん館代表)

予約: 長谷川書店店頭、Tel. 075.961.6118

または Email. utatanebookss@yahoo.co.jp

* 席数に限りがございますので、定員になり次第受付を終了させていただきます。



Sukimaki Newspaper PAROLE Vol.6 | April 22, 2024
<https://sukimaki.com>
@sukikara_makiko

パ ロ ル

vol.

6

TAKE
FREE

『ねこはねこのゆめをみる』

アニメーション作家・鋤柄真希子はじめての絵本



2007年に鋤柄真希子が立ち上げたアニメーション・スタジオ。2010年以降は松村康平と共にマルチプレーン撮影台を使った短編アニメーション作品を制作している。現在、動物と植物が織りなす宇宙を舞台にした新作 SF ファンタジー『LUNATIC PLAN(e)T』を制作中。

絵本『ねこはねこのゆめをみる』(¥1,980)
えほん館ネットショップにて販売中。



えほん館ネットショップ

『ねこはねこのゆめをみる』制作日記 #4

言葉を産む言葉

長年いろんなところで子ども達に絵本を読ませてもらっておもしろいなと感じるのは、子ども達が発する言葉です。

絵を見て（絵を読んで）見つけたものを言葉にする時もあればお話から感じたことを言葉にする時もあるし、絵本を読んでもらって思い出した絵本とは全く関係ないことを喋りだす子どももいます。それらは全てその時その瞬間に発せられます。私は出来るだけ受け止めるようにしています。

なぜなら、人は心が動いた時に言葉を使うからです。だから言葉を通して子ども達の動いた心を受け止めたいのです。



『ねこはねこのゆめをみる』制作日記 #5

アニメーションと絵本、制作の差異

スキマキ・アニメーションがこれまで制作してきたアニメーション作品のあまり語られることのない文法の一つとして、ダイアログ＝言葉を持たない（宮澤賢治原作の『やまなし』（2011）は唯一の例外）という特徴が挙げられる。サイレント映画で挿入されるような状況や感情を説明する字幕（*タイトル、クレジットは除く）も登場しない。言葉を持たない「生物から見た世界」を描いた作品群を俯瞰してみれば、作中における言葉の欠如は自明のようであるが、とりわけ擬人化（豚が喋ったり、ネズミが二本足で歩いたり）については脚本執筆前に鋤柄氏とどこまで許容するかという話をいつもしていたように思う。結果としてこれまでのフィルムグラフィイーでは、あまり擬人化に頼ることなく現実を目にする動物たちの不可思議な行動に思いを馳せ、脱人間中心主義の視座から世界や現象を想像することに作品の着想を得てきた。

とさてダイアログ＝言葉の話に戻る。劇中にダイアログ＝言葉を有しないとはいえ、当然脚本は言葉を使って思考されている。さらにいえば物語を言葉で考えると同時に言葉を介さないイメージも思い描いている。このように言語的思考とイメージの思考が往復することによって脚本と絵コンテ（レイアウト、カメラワーク、カット割り）を平行に進めていくのがスキマキ・アニメーションのスタイルである。しかし！ここで脚本と絵コンテに決定的な時差が生じる。絵コンテは鋤柄が担当しているため、松村が脳内で思い描いたプレ絵コンテは指示書きのみを残して白紙のまま一旦ペンディングされる。松村から文字や言葉でシーンの意図を鋤柄に伝達された後、松村による複数の軌道修正を施されたり鋤柄によるアイデアが付与されたりして、二人の思考が溶解したキメラ状態となって絵コンテが完成する。

今回、絵本『ねこはねこのゆめをみる』の「文」を創作するにあたって、今までに感じたことのない違和感を憶えた。それは執筆時にイメージがまったく喚起されないというとても奇妙なものだった。絵本における「文」はアニメーションにおける「脚本&絵コンテ」と同じだとばかり考えていたが、どうやらまったく違うらしい。そもそも絵本にはカットを割るとかカメラワークを考えるとという概念がないのだ。ただ純粋にページをめくるだけ。ページをめくることがモンターージュであると言えなくもないが、アニメーション(映画)特有の運動イメージの不在に起因するものだろうか、まったく絵が浮かばないのだ。それを逆手にとって私はこの状況を大いに愉しみありふれた単語を使いながら韻を踏んだり主客を軽やかに転倒させたりなどして文字の裏側に潜む抽象的な情景を生み出した。「絵」を担当する鋤柄氏の生みの苦しみは如何に。



散歩する無意識 - 松村康平映画評 -

『オッペンハイマー』 (2023) Christopher Nolan



散歩する無意識 - 松村康平映画評 -

『オッペンハイマー』 (2023) Christopher Nolan

ブロックバスターにフェティシズムを持ち込むことを許された数少ない映画監督であるクリストファー・ノーラン。本作は言わずもがな全編 IMAX65mm カメラで撮影され、オッペンハイマーに嫉妬するストローズに焦点を当てたパートで用いられるモノクロフィルムに至っては IMAX 用に特注してしまう徹底ぶり。オッペンハイマーの脳内イメージ＝原子レベルの核分裂マイクロ描写も IMAX フィルムを用いたアナログ実験映像として表現してしまうのだから、それだけでも必見に値するだろう。

本作はこれまでの時間、空間、記憶を捻じ曲げることが主題であったノーラン作品とは大きく異なっている。冒頭からキリアン・マーフィー演じる主人公オッペンハイマーに延々と寄り添い続けるカメラワークにどこか違和感と戸惑いを覚えながら（事実 1、脚本のオッペンハイマーパートがすべて一人称で書かれていたというし）、これ IMAX 撮影じゃなくてもいいんじゃないか？というような地味なシーンの積み重ね（事実 2、過去作でノーランが描いてきた壮大なスペクタクルシーンは終盤のトリニティ核実験まで登場しない）により物語が進行していく。上記を踏まえノーランは IMAX の新たな活用法として、高精細画像を用いれば魔法のように人の内面、内省が炙り出されスクリーンに映し出せると考えたのではないかと推察される。『ダンケルク』（2017）のルックを現代写真家アンドレアス・グルス

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に語りかける絵本にしたいと思っています。



あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

あかちゃんもおもしろいです。あかちゃんの反応は、じっと見る。私の声を聞きながらじっと見続けるという反応です。口が動く時

もあります声が声にはなりません。でも声が出たり顔が動いたり笑う時

もあります。それらの反応はあかちゃんが絵本に興味を示している、絵本を楽しんでいる証拠です。そしてそれらの反応は、

ただ絵を見せているだけの時ではなく、絵を見せながら言葉で語りかけている時に多く現れる反応です。言葉が熟成する過程を見

せてもらえて本当におもしろいです。

人は心が動いた時にその動きを伝えたくて言葉を探し、見つけた言葉、

自分が納得した言葉で表現しますが、今回の絵本『ねこはねこのゆめをみる』はその最初の段階となる、動く前の心に丁寧に

語りかける絵本にしたいと思っています。

作者の一人である松村さんの短く少ない文章は、文字数と対照的に壮大な生命の循環の物語を語っています。文章からは読者に何かを伝えようとか教えようとする意図は感じられず、全てを読者にゆだねています。それは勇気のいることですが、とても素敵です。

私には一つ一つの言葉の間に宇宙空間が存在しているように感じられます。この空間は私たちの心と同じ。頭で考える前にただ読んでもらいたいと思います。

松村さんの文章が、「言葉を産む言葉」として皆さんに届くような絵本にしたいと思います。

(えほん館代表 花田睦子)
* 初出 2023 年 10 月 9 日



田んぼ、土の記憶

田んぼをやらせてもらえることになった。自分で食べる分のお米を作れたらいいなと思っていたので、田んぼをやらないかというお誘いに大はしゃぎしてしまった。田んぼは家から自転車で 5 分ぐらいのところであって、保育園へ行く道の途中にある。広さは 5 畝（約 150 坪）。仲間を募って女 4 人でやることになった。

去年は休耕地だったので、草が生え放題。セイタカアワダチソウやギシギシ、チガヤがしっかりと根を張っている。巨大化したセンダングサやアザミはひっついてチクチク刺してくる。刈られた稲から新芽が伸びて穂もつけている。大きな草をかき分けると地際にはやわらかい草がびっしりと生えていて、ここの土が豊かなことを教えてくれた。冬の間に 1 ヶ月ほどかけて草を刈った。草の下にはたくさんの虫が眠っていて、みんなこんなところで寝てるんだとびっくりした。どこから種が飛んできたのか分からないけど、アキニレの若木がいたところに生えている。若木とはいえやはり木なので硬くて切るのに苦労した。樹形が美しかったので一株鉢上げて家のベランダで育ててみることにした。

しゃがんで草を刈っていると地面に近い日線になる。立っちは見えなかったものがたくさん目に入る。田んぼの土は掘ってみると地層になっていて、これまでこの田んぼで起こった出来事が記憶のように積み重なっている。ふとこの記憶を読めたらどんなに良いだろうという気持ちが芽生えた。私の浅い経験では何も読み解くことができない。できるだけ丁寧に作業を進めて、経験を積み重ねていけば、いつか土の記憶を読むことができるだろうか。

4 月になり桜が花開くと同時に、ベランダのアキニレが芽吹いた。ちゃんと根付いてくれたようで安心した。田んぼは苗から育ててみようということになり、苗床を作り種蒔きの準備を進めている。いよいよ田んぼが始まる！

(鋤柄真希子)



キーを参考にしたと公言していることを鑑みれば、IMAX に偏執するノーランは本作の撮影に際して大判カメラを用いて『20 世紀の人間たち』（1892-1952）を撮り続け様々な身分・職業の人々にアウラを纏わせたアウグスト・ザンダーのスタイルを召喚しようとしたのではないだろうか。

とまれ、ここで巷間取り沙汰されている被爆者、被爆地の描写がないことに言及したい。思わずうまい！と唸ってしまうロスアラモスでの核実験成功を告げる演説シーンは確かに特異点をついている。映像演出と音響効果によってマンハッタン計画を遂行した研究者たちの歓喜の涙は慟哭の涙へ、熱狂の手舞足踏は地球滅亡の地鳴りへコンテクストを横滑りさせていく、ように見える。しかしそれはあくまで核兵器使用後の惨状を知っている者のみが想像しうる悲しい特権である。観客の想像力を信じると嘯くあまり原爆投下後の広島と長崎すら描かずに、歴史的事実を知らない人々に一体何を喚起させ得るというのか。ナチスが記録したであろうホロコーストにおけるガス室大量虐殺の映像を生涯探し続けたゴダールのように、ノーランはオッペンハイマーが見たであろう被爆地の記録映像をこそ IMAX で見つめ直すべきだったのではないか。この映画にはドキュメンタリー性が永遠に欠落している。映画とはドキュメンタリーとフィクションを越境するための思考法であるというのに。

『オッペンハイマー』は IMAX フィルムに狂信するあまり、技術や美意識に囚われ過ぎたノーラン自身のディレンマと、原爆の父と呼ばれた理論物理学者オッペンハイマーの葛藤を無意識的に重ね合わせた極めて個人的な映画なのかもしれない。

(松村康平)